

折に触れ 四字熟語

NO. 292 『因循姑息』 いんじゅん こそく

< 意味 > 古い習慣ややり方にとらわれて改めようとせず、その場しのぎに終始するさま。

< 出典 > 『^{れきだいめいがき}歴代名画記』

表 言 : 因循姑息なやり方

用 例 : しかるに幕府の攘夷論はとかくはとかく因循姑息に流れて埒^{らち}が明かぬ、
＜福沢諭吉・福翁自伝＞

語 釈 : 「因循」は因^より循^{したが}う意から、しきたりにとらわれて改めようとしないこと。「姑息」は姑^{しばらく}く息をつく意から、一時の間に合わせのこと。

一 言 : 自民党派閥の裏金事件を受けた政治資金改革をめぐり、先般、自民党がやっと単独で政治資金改革案を取りまとめました。この案に対して野党や政治評論家からはこの熟語の意味にある通りの厳しい指摘と批判が出されています。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」